

ミする所である。彼の、前代より近世初頭にかけての斯道の第一人者、細川幽齋及其門流より筆を起して、元祿古學興隆期の長流契沖に入りて、愈々近世和歌史の意義を確立し、次いで眞淵の縣居派、宣長の鈴屋派、千陰春海等の江戸派、及び元祿以後の二條派を顧みつゝ、景樹の桂園派に移り行きて、遂に近世末期に至る消長變遷を叙したる本書は、至極簡明なる記述振ミ、各歌人の豊富なる作例ミ百三十圖に餘れる筆蹟寫眞版並に其解説ミ、卷末の近世歌人系譜ミ、凡そ此等四個の特色に依りて、近世和歌史の概略に通ぜんミする者の爲には、甚だ恰好の趣味ある手引書たるの資格を備へて居る。唯併し乍ら本書素ミ東京帝國大學に於ける講義草稿を「更に一般の讀者にふさはしいやうに書き改め」られたものなるが故に智識ミ考察ミに於て、今一步深き、廣き、且新きを求めんミする讀者に對しては、多少嫌焉たらざるものあるを免れ難い。(博文館發行、定價三・二〇)〔中村喜〕

●外蒙古近世史

陳崇祖編

本書の著者は武昌の産久しく漠北の地に在官し機務に

與りたる人、其の記する所は其の實地見聞に基ける宣統三年外蒙古獨立以後民國十年に至る間の歴史なり、第一篇獨立時期之外蒙は第一章獨立之原因にて清廷用人之失宜、西藏喇嘛謀逆革去名號、迫向哲布尊倫用槍枝、三多懲辦德義勇捨案、抗達親王等赴俄求援等の諸項、第二章獨立時の情形にて俄兵來庫、以下六項、第三章俄人之密謀にて俄人聯絡汗王及蒙民以下七項、第四章蒙人の自治にて與俄人私訂條約以下六項を詳述し、第二篇中俄會議後之外蒙は第一章北京會議にて中俄第一次開交條件以下六項、第二章恰克圖會議にて提議取銷外蒙帝號以下十一項、第三章陳籛治蒙にて頒布外蒙古官制以下十六項、第四章陳毅治蒙にて設立銀行以下二十項、第三篇取銷自治後之外蒙古は第一章取銷自治之經過にて王公之倡議以下八項、第二章徐樹錚治蒙にて冊封典禮以下十一項、第三章陳毅接任にて官制改組以下恰克圖失守まで二十項を詳論し昨年七月の出版に係る。清末より現今に至る支那の對外蒙古政治的關係を知るに甚だ便利なるものミす。(商務所書館發行、定價大洋壹元)〔那波〕